

校長通信（第6号）

令和7年1月8日
東京都立田無高等学校
校長 長嶋 浩一

第3学期始業式校長講話の内容

1 蛇にまつわる故事やことわざ（その1）

今年2025年（令和7年）は巳年（へびどし・みどし）です。今年の干支である「蛇」にまつわる故事やことわざについて紹介します。

蛇（じゃ）は一寸（いっすん）にして人を呑む

小さな蛇でも油断すれば人を飲み込むほどの力を発揮する、つまり**小さな力でも無視できない**ことを示しています。転じて、**小さな変化が大きな成果につながる**ことを願い、これからの成長を応援する言葉として使われます。

臥龍（がりゅう）蛇（へび）の勢い

龍が横たわり、蛇がその力を合わせていっそうの勢いをつける様子を表現した言葉で、**潜在的な力を持つ人物が動き出し、大きな影響を与える**ことを意味します。その人の持つ**潜在的な力や才能を発揮し、素晴らしい成果をあげる**ことを願う言葉として使えます。

2 broken window theory（割れ窓理論）について

今年を象徴する二つの故事やことわざを紹介しました。このことに関連して、今日は、アメリカの心理学者ウィルソンとケリングが考案した broken window theory についてお話ししたいと思います。broken window は「割れた窓」、theory は「理論」という意味であり、日本語では「割れ窓理論」と言われています。

broken window theory とは、「1枚の割れた窓が修理されずに放置されていると、その建物が誰にも注意されていないという象徴になり、やがて他の窓も次々に割られてしまう。そして、ごみが捨てられ、やがて地域の環境が悪化して凶悪な犯罪が多発するようになる。」という犯罪理論です。逆に考えれば、公園や地域の清掃活動、落書きの消去活動などにより**小さな乱れ、問題に早く対応することで、犯罪を未然に防止する効果がある**といえます。例えば、かつては犯罪多発都市であったニューヨークでは、当時のジュリアーニ市長が1994年以降、この理論を応用して、割られた窓などの修理や落書きなどの消去、軽微な犯罪の取り締まりを強化した結果、犯罪発生率が大幅に低下しました。

公言されてはいませんが、ディズニーランド・シーではこの理論が活かされています。

ディズニーランド・ディズニーシーには、「ほうき」と「ちりとり」を持って、パーク内を清掃している「カストーディアルキャスト」というキャストがいます。カストーディアル(custodial)とは、日本語で「維持する」という意味です。彼らはパーク内の地面の清掃だけでなく、お手洗いや水飲み場、植木等も清掃しています。また、雨などで濡れてしまったベンチを拭き上げ、トラッシュカンに溜まったゴミの回収や分別なども行っています。

ゲストが目にしえない所にもカストーディアルキャストがいます。「ナイトカストーディアル」と呼ばれる、パーク内をリセットするお仕事をされている方々です。東京ディズニーリゾートが誕生した1983年の状態に「リセット」し、当時の初々しい姿を維持する、という役割を担い、ゲストが退園し、次の日の朝、ゲストが入園してくるまでの間に、パーク内の清掃を担当しています。

他にも大切な要素があります。それは「修繕」です。ディズニーランド・ディズニーシーでは、塗装の剥がれはもちろん、小さな傷も見逃さずに修繕されています。また、ゲスト側のモラルやマナーも向上させる役割も果たしています。こうしてカストーディアルキャスト

の地道な活動により、安全で清潔なパークが保たれているのです。

ごみ箱が放置された公園や、雑草が伸び放題の空き地などでは、犯罪が起きやすいことが指摘されています。その場所が誰にも管理されていないというメッセージを送っていると思われるからでしょう。

割れ窓理論は**一つの小さなルール違反などを見過ごしていくと、だんだんとモラル低下が進み、しまいには無法地帯のようになってしまう**ことを表現しています。これは、犯罪行為だけでなく、学校や公共の場でのモラルも同様です。

学校の場合、壁に貼られた掲示物のいたずらを放置しておけば、やがて掲示物は破られ、落書きが始まるようになることでしょう。そして、その落書きを放置していれば、教室や校内でのモラルがどんどん低下し、備品・建物が壊されたり、大きな問題が発生したりする危険性が高まってきます。遅刻やルール・約束違反などを放置していると、どんどんモラルが低下していきます。「落書きぐらい」「遅刻ぐらい」「ちょっとしたルール違反ぐらい」と、「まあいいか」とか「他の人もそうしているからまあいいや」などと言って放置しておけば、やがて無関心で善悪の判断がつかなくなる、「荒れた風土」が出来上がってしまいます。

学校の主役は生徒である皆さん自身です。本校では、生徒の皆さんが部活動単位で毎朝校内外の清掃活動を行っています。地域のボランティア活動にも積極的に参加しています。委員会や系の活動では、イベント前後の校内美化やトイレトペーパーの補充作業等に取り組んでいます。また、生徒会が中心となり学校行事の運営に携わったり、本校独自の SNS ルールを定めたりするなど、生徒自身の自治活動も充実してきています。このような**一つ一つの小さな積み重ねが、「安心・安全で、明日もまた来たくなる学校」をつくりあげているのだ**と思います。

3 蛇にまつわる故事やことわざ（その2）

最後に蛇にまつわることわざをもう一つ紹介します。

脱皮して以て（もって）大蛇（だいじゃ）と成る

成長するためには、過去の自分を脱ぎ捨て、新たな自分になることが大切である、という教えです。蛇が皮を脱ぐように、**新しい自分に生まれ変わる**ことを象徴しています。

2学期の終業式では、「心が変われば**態度**が変わる。態度が変われば**行動**が変わる。行動が変われば**習慣**が変わる。習慣が変われば**人格**が変わる。人格が変われば**運命**が変わる。運命が変われば**人生**が変わる。」という話をしました。

本校では、すべての教育活動において、結果だけでなく「プロセス」を重視しています。成功体験はもちろん必要ですが、失敗からも学ぶことはたくさんあります。要は**その過程で何を考え、どう行動するかが重要**です。小さなことを軽視せず、**一つ一つの積み重ねを大切にし、不撓不屈の精神を以って何事にも果敢にチャレンジしていく**ことが皆さんの成長につながり、社会の中で生きていくために必要な力を高めてくれることでしょう。

皆さんにとって今年が飛躍の一年となることを祈念しています。